

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 19 号 (9 月 24 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県リーグ 辛勝3戦連続

9 月 20 日 (土) Y2B 第 13 節米沢工業戦が山形商業 G で行われました。今年の県リーグ戦も残り 2 節。山東はここまで暫定 1 位。もちろんこの節勝てば 1 位を継続できる。スリリングな展開となってきました。相手は勝負強い印象のある米沢工業。昨年の県総体 1 回戦でヨシタカの代が痛恨の初戦敗退を喫した思い出が強い。**派手さよりも献身、技術よりも球際を求められているチームとの印象があり、進学校のようなひたむきな選手がそろっている。県内の他の工業高校と比較すると、米工のまじめさは傑出している。このようにチームをとつか、指導者を評価しておりました。**一回目の対戦では山東が勝利しているものの、あれは 3 年生がいたときの戦いであり、比較にならない。とある情報筋によれば「3 年生はほとんどが引退した」そうなので、「新人対決になるな」と思っておりましたが、当日米工のメンバー表を見て「あれ?」。ほとんど (確か 9 名) が 3 年生。試合前でしたが、米工ベンチに事情を聞くと、選手権に向けて 3 年生主体のチームで臨むとのこと。正直落胆しましたが、勝負の前に相手の事情に一喜一憂するのは良くない。この勝負勝つしかないんだと言い聞かせる。2 年生 CB タツルとこれまで CB を組んできたのは、山形一中が誇る感性の男¹シャモジ (2 年生) なのですが、故障明けであり先発はさせず。地区新人山形中央戦で MOM に輝いたシュン (1 年生) をタツルと組ませる地区新人と同じ布陣。この布陣のスタートが、後にドラマを引き起こすとは・・・。

試合が始まるとすぐ山東ペース。左サイドでパスを受けた FW ムンタリが前を向いて相手を抜き、そのままゴールに迫る。左足で逆サイド方向にグラウンダーでシュートを放つも、米工 GK が弾く。しかし、弾いたボールは、ゴール中央から詰めた FW タイチの正面にこぼれる。タイチ、あとは、無人のゴールに流し込むだけ・・・でしたが、焦って蹴られたボールはバーの上へと消える。決まっていれば開始 0 分 or 1 分の得点となるはずでしたが、**この勝負、そんなに簡単には行かせないという天の配剤か。とまあ、格好良く表現しましたが、タイチの技術の問題。**その後も山東の攻撃が米工ゴールを脅かす。ムンタリがまたもや抜け出して、GK と 1 対 1。前に出てきている GK をよく観たループシュートを放つも、またしてもボールはバーの上へと消える (同じく技術の問題)。連続してつかんだ決定機をつかみ損ね、誰もが悪い流れを感じていました。しかし! **米工サイドのピッチ中央で得た FK をカツミがクイックでフワリと左に浮かせると、フルアウェイの動き (ボールから離れる動き) で抜け出したタイチが、ゴール右方向 (逆サイド) に向けヘディングのループシュートを放つと、見事にコントロールされたボールがネットを揺らし、山東先制に成功。**3 度目の決定機をつかみ、悪くない。前半 10 分か 15 分くらいの先制弾。その後は気を良くした山東が快調に攻め、と言いたいところですが、一進一退のまま、ハーフタイムを迎える。前半の終り間際に一度、シュンが裏を取られ、GK と 1 対 1 の場面を作られましたが、我らがサブローが 1 対 1 を制し、1 対 0 で折り返す。

¹ プレーヤーとしてももう少し良くなったら、天才肌の男と名付けましょうか。小ネタですが、サッカー部でもっとも「ボールを追うよりも女の子を追っている」(「カツミではない」との情報)が上がってきています。

前半は相手の決定機 1 回、山東の決定機（少なくとも）3 回と、チャンス獲得数の上では山東優勢でしたし、米工の決定機以外で危なかったシーンはあまり記憶にない。しかし、山東の攻勢が続き先制した後は五分五分の展開に持ち込まれ、というか、持ち直されてのハーフタイムだったので、苦しい前半だったとの印象はある。ただ、**後半のことを考えればこんなのは序章に過ぎなかった！** 後半が始まると、相手の分厚い攻撃を許し、山東サイドに釘付け。山東のカウンターも、FW やサイドハーフ SH のコントロールミスが多すぎて、散発的に終わる²。**跳ね返してはボールを奪われ、また攻められる悪循環。** 山東、1 点勝っているだけに何としても守らねば（守れば勝てる）という「受けの意識」が働いたか。ともかく、**アウトサイドで数的不利になりセンターリングを許す、それを跳ね返す、の連続。または、CK を与え、跳ね返すも、またしてもサイドに展開され、また CK を与えるの連続。** この展開が 30 分くらい続いたのでしょうか。やっている方（選手）も集中しっぱなしで疲れたと思いますが、観ているこちらは継続的に「ハラハラ」を強いられ、グツタリ。あのですね、いくらなんでも CK 与えすぎじゃないでしょうか。まず、最初に相手と対峙する 1st Defender（以下 1st）が良いポジションを取り切れずに相手に前に入られているので、相手の蹴ったボールが足に当たるとゴールラインを割ってしまう。これ、ボールとゴールを結ぶ直線上のいいポジションにい続けることができると、相手の蹴ったボールは前方または横に跳ね返るので、せいぜいスローインが関の山。まず 1st が甘い。次に 2nd Defender（以下 2nd）。サイドで相手ボールホルダーを挟み込んだ後に相手のボールを体を入れて奪いに行かないと、1st の圧力でゴールに背を向けている相手のバックパスが 2nd に当たり、またしても CK を与えてしまう。観ている方は「何回連続で CK を与えてるんだよ」とイライラ。そんな時間を過ごしていれば耐えきれず失点となるのは致し方ない。**右サイドでなぜかスローインから簡単にセンターリングを許し、逆サイドからゴール前へ走ってきた相手にヘンディングシュートを許し、失点。** 後半 30 分ほどで失点し、1 対 1 となる。ここで顧問は考えました。タイチをベンチに下げタツルを FW に上げて勝負に出るか。でもでもでも、守備が安定していない中で守備の要を欠いてしまうのはどうなんだろうか？ ここでの投入は攻撃の切り札ではないか？ とまあ考えること数秒、選手がマグネットで表現されている作戦版を見たときに、**いるじゃないですか、切り札が。ということで、切り札シャモジ投入！！** そのシャモジ、前線から積極的に動き、攻撃を活性化させる。というか、まず、山東に元気を与えてくれた。それは間違いない。ただ、元から技術がないだけに、空回り気味か、と思った矢先、**スローインの対応を誤った相手 DF の動きを咎めたムンタリが右サイドを抜け出し挟み、ゴール中央でフリーで待ち構えるシャモジにラストパス³。さすがにこれは決めて、同点劇から間もない突き放し弾を決め、山東 2 対 1。** あとは何とか米工の攻撃を凌いで、山東の勝利。そういえば、後半にもサブローの左手一本で相手シュートを防ぐビッグセーブがあり、それに助けられました。

いやいや、辛勝も辛勝でした。後半の内容は完敗。米工がサイドで数的優位を作るもクロスを放り込む回数が多く、攻撃がやや単調だったことに助けられました（その分 CK は多かったが）。アウトサイドから山東の守備陣を剥がしゴールに迫るような penetration の攻撃をされると、もっともっと苦しかった。ともかく、ただただ疲れました。応援ありがとうございました。次節リーグ最終節、宿敵鶴南戦、応援もよろしくお願い致します。

9月27日（土）Y2B 第14節 鶴岡南戦 12:00～ @酒田市北港緑地公園

² 対して、ボランチの出来は悪くなかったように思います。サンパス（1年）はさほどではなかったですが、カツミのプレーには安定感がありました。

³ このシーンをぜひ HP でご覧下さい。シャモジにパスされたら止めるのは難しいとの判断だったか、相手 GK はそのパスを全身全霊で止めに行っています。